
初めてのプロポーズ（前編）

ゆう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初めてのプロポーズ（前編）

【コード】

N18290

【作者名】

ゆづ

【あらすじ】

当たり前のように送っている生活が実は当たり前ではないという事を感じてもらいたい。

僕には結婚して5年が経つ妻がいる。

名前は花形恵美子。掃除、洗濯、食事の準備まで器用にこなす。顔も自分で言うのも何だが美人な方だと思う。

ただ長くいすぎたせいか二人の間に出会った頃のような新鮮な気持ちがない事が嫌だった。

そんな気持ちが僕を浮気の道に進ませた。彼女に「仕事」と嘘をついては、他の女と会っていた。

最初は罪悪感もあったが、それも時が経つにつれて徐々に薄れていった。

「今度の貴方の誕生日は早く帰って来られるの？」妻が言った。

「ああ…仕事があるから遅くなるかも」

何時もの調子で答えた。

何気ないいつも通りの会話だったが妻は悲しそうだった。

午前7時に目覚ましの音が鳴り響き、渋々起きた。誕生日当日だ。窓から見える外の景色は薄暗く雨が降っている。

会社に行く準備を済まし、家を出ようとした時、妻が何か言っていた。そうになっているのに気づいた。

「どうした…？」と僕が聞くと、妻は

「今日は…ううん何でもない」

と答えると、すぐに

「行ってらっしゃい」と僕の肩を押した。

会社が終わり時計を見ると午後6時過ぎだった。妻に遅れると一報だけいれ、すぐに女の家に向かった。

結局家に帰って来たのは午前1時を過ぎていた。
もう寝てるかもしれない、今度何か埋め合わせでもしよう。
そんな事を考えつつ、靴から鍵を取り出し玄関のドアを開けた。

「ただいま」

返答はなかった。

もう寝てるだろう…　まあ誕生日とはいえ時間も遅い…仕方ないか…

玄関の先のドアを開け居間へと入ると、テーブルの上には妻が準備したと思われる二人分の料理が手つかずのまま綺麗に並べられていた。

僕が寝室覗こうとした時近くで大きな音が鳴り響いた。電話だ。

こんな時間に誰だろう…とは思ったが妻を起こさぬようにとすぐに電話をとった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1829o/>

初めてのプロポーズ（前編）

2010年10月12日17時45分発行